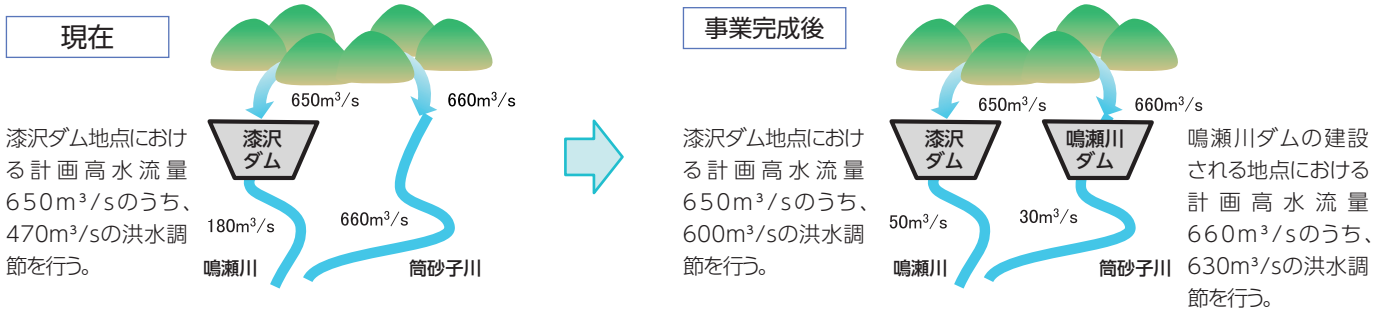


洪水から生命と財産を守るために

## ■ 鳴瀬川総合開発における洪水調節の計画

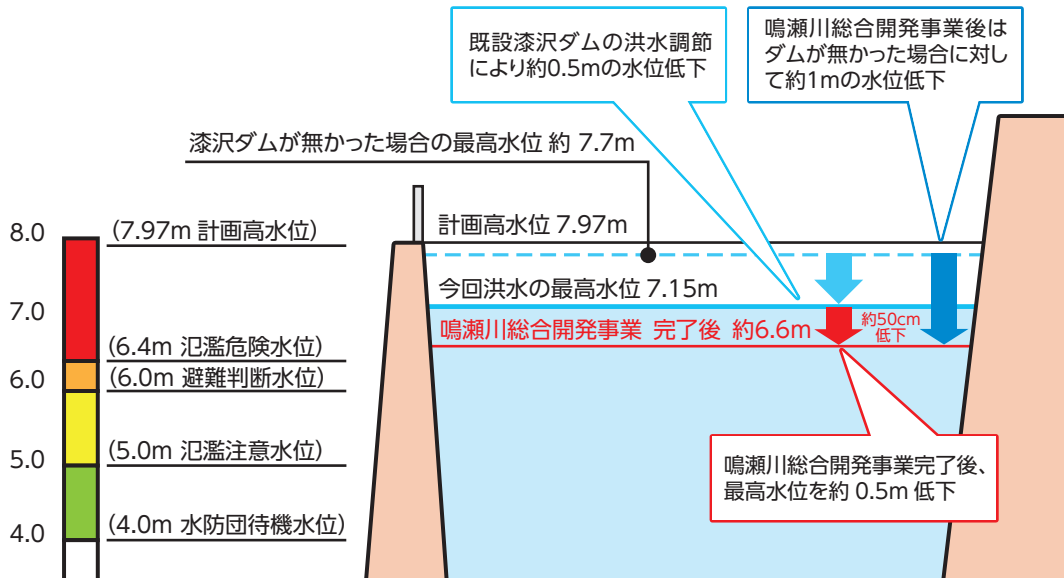
ダムがなければ、上流に降った雨はそのまま下流に流れてしまうため、大雨が降った場合、河川が氾濫する等、被害が生じます。このため、ダムを建設し、一時的に洪水をダムに貯め込み、下流の洪水被害を軽減します。鳴瀬川総合開発事業は、鳴瀬川ダムの建設と漆沢ダムの再開発(洪水調節専用化)\*を行い、洪水調節機能を強化します。



\*洪水調節専用化：総貯水容量のうち、利水容量を洪水調節容量に振り替え、ダムの目的を洪水調節専用にすること。

## ■ 洪水調節の効果(シミュレーション)

令和元年東日本台風に伴う洪水により、各地で甚大な被害が発生しました。この時、鳴瀬川の三本木水位流量観測所(大崎市三本木)では、最高水位が既往第2位の $7.15\text{m}$ を記録し、氾濫危険水位( $6.4\text{m}$ )を $0.75\text{m}$ 超過しました。シミュレーションの結果、もし既設漆沢ダムが無かった場合、三本木橋水位観測所の水位は約 $7.7\text{m}$ となったと考えられ、既設漆沢ダムの洪水調節により約 $0.5\text{m}$ 水位を低下させていたと推定されます。また、この時、鳴瀬川総合開発事業が完成していれば、三本木水位観測所の最高水位 $7.15\text{m}$ から、さらに約 $0.5\text{m}$ 低下できたと考えられ、同等規模の洪水に対し、ダム下流域の安全性が大きく向上する事が期待できます。



鳴瀬川の上流で水をいっぱい溜めて下流を守るんだね。